

1945年（昭和20年 辰雄41歳）

小池辰雄書簡（妻への手紙）（2）

（宛先）岩手県一ノ関町川街 小池順子様

（武蔵野町吉祥寺）小池辰雄

——第七信 1945年4月1日（日）真夜半——

3月29日（木）。東京は春の名物の風が吹きだした。家の中はザラザラしている。夕方、尾崎サンが風呂をすすめに来られたので遠慮なく入りに行く。佐藤さんでも一度入った。Oノ字は口八丁の人間、ことにTは。矢田さんが、すばらしいものをもつて来てくれた。何だろう。砂糖より甘きもの、詩篇19篇にその語がある。わかつたろう。これをパンにつけた。大したものだ。東京は少し豪華版すぎるかね。空襲下だもの仕方がないさ。大豆を煮てフンダンにたべる。ニンジン、ゴボウのキンピラ。

浅田さんは、福井県遠敷郡小浜町白鳥^{おにふ おぼま しらとり}□、石原林業部に疎開。日本海が居ながらにして見えるとてもいいところだという。一寸羨ましいね。日本橋でやかれなくてよかった。浅田さん一家の信仰のたまものであろう。

今日は久しぶりで日赤へ行った。みんな僕をとり囲んではなしをききに來た。疎開講座を一席やった。自炊にはいたく同情していた。島津さんにも渥美さんにも申訳をした。みな何にも気にとめていない。むしろいろいろたずねられた。日赤外事部にも、独乙語を教えた Mädchen「女の子」が三人も罹災していた。日赤自身の疎開問題はゴタゴタしている。三品さんは来週来てくれる。教文館も売れが少なく買入れが多くて少々閉口の形らしい。手不足となって大変らしい。来週は日赤の老夫妻が来ることになった。たすかる。しかし、ひとりであるほど勝手が出来ぬのは余りありがたくない。

畠は買うなり、借りるなりして、野菜をつくることになるだろう。そちらの疎開地でラジオで大分、やかましく増産を説いているから。今晚ラジオで、「疎開先の妻へ」という手紙の相談をやっていた。いろいろ参考にもなる。

「田舎はこえだめというりが子供にあぶないから充分気をつけなさい」
などと言っていた。

「田舎の生活に心を充分きりかえなさい」

とも言っていた。郷に入っては郷にならえであろう。土地も買えたら（ニューシティーにお借りしても）買って置きなさい。3百坪あったらいいと思う。3千円位はまたつくつてやるよ。ニューシティーがそれ位おごつて下さってもいいと思うがね。これはしかし強いわけにはゆくまい。心からくださるのでなければこつちだっていただきたくはないさ。



ニューシティーは移られたかね。すべては順調かね。文子さんと仲よく、互いにたすけあつてね。出来れば小さな家が一軒ほしいね。若しみつかつたら移転してよい。なるべくまちはずれがよい。畠も出来ようから。

照雄はだんだんクンレンしてお姉さんや兄さんと遊び且つ、兄妹たちと一緒にねる様にしなさい。はじめは泣いてもやむを得ぬ。男は強く育てねばだめだよ。女はやさしくそだてておくれ。子供たちの心理をよくのみこんで、彼らの純情をすなおにのばしてやる様にしなさい。

熊本さんに道であつたので、立ちよつてもらつてお茶をのんだ。兄さんからいただいたコーヒーとパンを御馳走したら、よろこんでいた。石鹼と洗顔クリーム、シャンプー、ゴボーなどをお土産にあたえた。近日、例の10個発送のみこみ。

31日（土）。今日は学校は休み。終日家の整理のつもり。山本からタンス2サオ、夜具つみ3つ、茶箱1が来ているのでおななどをキレイにしてそれを入れた。お座敷と次の間を戸倉夫妻に貸すつもり。僕は例の室に陣取る。茶の間は共同。炊事はすべてマカセルつもり。明日夕刻、会いに来る由。

◎さて、通帳類でこつちにないと困るものがある。至急送つておくれ。炭の通帳、隣組のための国債貯金帳、それから毎月10円出している何かの通帳があつたね。その他に未だあつたら至急送つておくれ。今日は炭屋に謝りにゆかねばならない。

◎土校疎開未定、どうもせいぜい関東地方ではないかと思われる。勿論分散的に。しかし、60期生徒担当の我々はどうも残留組らしいので万事窮すだ。窮すれば通ずることもあろうから、一切を天にまかせる。4月に入ったら一度訪ねたいがどうなるかわからぬ。請願休暇は然るべき理由がなければ許可されないから。さりとて戦局をみると余りグズグズしていると行けなくなる虞れあり。何か理由が出来たら教えてもらおう。電報の方が適切である。兄や佐藤さんやOノ字にたよりをした由、有難う。ところで僕のところへはちつとも来ないね。それから、小さい連中からまたよりがなくて寂しいね。お父サンは来月（4月）は半頃でなければ往けないだろう。その頃、鉄道不通となれば万事終りだ。

うちの庭の梅が満開である。桜もそろそろふくらんで来ている。

燃料はこちらは充分あるのでわけてやりたいが仕方がない。

4月1日。とうとう4月に入りました。照雄は元気になりましたか。今日は殆ど終日学校。入校式、校長、監事の訓示、某大佐の講話（戦局に関するもの）などがありました。帰宅したのが4時。佐藤さんで風呂によんで下さつたので入る。Sさんは疎開中止、おばあさんの身体が疎開旅行に無理の由。

兄さんが侍従武官になられた。浅田さんからいただいた鮎二尾の置物をお祝いにあげる。非常によろこばれた。兄さんからは素晴らしい上衣をいただいた！ 天皇陛下から賜わった甘味を御馳走になる。昔のヨーカン、僕の大好きな谿間の真清水というようなもの。御

夕飯の御馳走（お赤飯）になる。夜、明日多分来る戸倉氏夫妻を迎えるための家の中の整理をして眠りについたと思つたら、ポーツが鳴る。京浜西南部より東進と来たから、警戒につく。やがて一機また一機とやって来て、照明弾を投じた。いくつも!! あたりが昼間の様に明るくなる。やがて、バクダン、シューイダンの雨。キカン銃の音。物凄い情景となる。中島をねらつたらしい。ところが全く間近にひびき一時は照明弾に囲まれ三方からて、これはいいよやられると観念したね! 順子たちが居たら大変だった。僕は外套を水に浸し、いざというときの態勢をとった。もうこうなると、何もとり出す気持の余裕がない。怪我をせずに身を護らんとの一念となる。一機々々の波状攻撃は数十機にのぼった。おそれ入ったよ! 真夜半をすぎてやつとおさまる。殆ど徹夜で夜があける。これから益々烈しくなろう。

順子! 愛する順子、手紙の上でしかおまえに接吻できないのはつらい。しかし、十年の結婚生活を恵まれたのだから感謝しよう。万一のことがあっても。僕は弱い男だけれども、それだけ神にあつて強くなり得る。すべては来世で天上で天国で! 再び離れることのない抱擁の楽しみが与えられることを何よりの楽しき希望として。これが情の僕だ。

魂と意志の僕は、偉大なる神の国の来臨を一切を越えて確信して生きる。そして、日本の最大の詩人として独一の使命観の中に在る。何人も僕の畢生の大業に追隨をゆるさぬ。

このアメリカの爆撃は今にもすごくなるのは火を見るより明かだが、それによつて、僕が火の車にのつて天上に昇つたら、お泣き! そして、その次には心から高らかに讃美歌をうたつておくれ。338、357、456、303、156、342番、いずれも天国に関わる歌!!

この頃はホーマーの「オディセウス」をよんでいる。ホーマー、ヴァージル、ダンテ、ミルトン、ゲーテをよくこなす必要がある。それから「羔の婚姻」。

僕の悲壮な詩の世界に於ける奮闘を考え、祈つておくれ。そして、心から僕と一つになつて進んでおくれ。順子の愛の祈りが最大の援軍なのだから。僕が中道で斃れるときも順子の腕に抱かれて天国への旅につく。たとい順子と一緒にここに居なくとも順子の愛の心が僕を抱いてくれるのを信じているから。そして、僕の屍でも一片の骨でも見つかったら、これを順子の胸に抱きしめておくれ。若し、何ものこらなかつたら、僕の魂を抱いておくれ。順子の抱擁を絶対に必要とする男であるから。ダンテがベアトリーチェを恋し、藤井先生が奥様を慕われたより以上に僕は順子を愛する。

キリスト・イエスに対する信仰が絶対である限り、神は僕のこの心を嘉して下さらう。それでこそ始めて、神に対し、国に対し僕は最も僕らしき俸身が出来るのだ。

それではまた! 愛の抱擁を経て、我らは一切の義務と使命に対して勇敢且つ忍耐深くあり得よう。さらば善き日々を送れ。4月1日真夜半。順子、辰雄。

*

道子サン達は安着されたのだろうね。文子サンにも感謝のよろしくを。おばあちゃんに



もよろしく。

——第八信 1945年4月2日（月）——

順子へ、辰雄。4月2日（月）午後から日赤へ行く。近頃は省線も市電も間遠まじおになつて時間のかかることおびたしいです。日赤では早速、昨夜半の空襲状況を島津さんにきかれた。帰途、山本へ寄る。富美チャンが来ている。夕飯の御馳走になる。カニとハム。オカラとイカといった豪華版。家の仲はすっかり整理されて、戸倉夫妻を迎える段どりとなる。

昨夜の空襲を想うといつ火の海になるかわからない。時限バクダンという曲者もあらわれた。僕も昭和医専に久しくつとめたものである。その一片の記念に、あの豪華版のアルバムをのこして置きたいが、重くて始末がわるい。それでその中の僕の写真とあのときの卒業生が僕のことを書いてくれた見出しとをきりぬいて同封して置きますから保存して下さい。子供らがいつか参考にしてくれるでしょう。あれは大体僕の本質を語ってくれた不思議な文字です。かつてあれだけ僕を知ってくれたクラスはなかったでしょう。いわば僕の医専生活の証言でもありましょう。

しずかな夜！ しかし空襲は一瞬にして様相を変え、そののみか、人の生を地から別の世界へ直ちに移してしまうことさえある。文明と背神の世はかくもあさましきものか。神の勝利をわが勝利とせんことに、私の心は徹しつつあります。平安ここに在り！ おやすみ。

*

はなし相手の順子を神様が僕からひきはなし給うた。それは僕をして詩作に没頭せしめんためなのだろう。お前を慕い焦がれれば焦がれるほど、私の心は詩の国へ没入してゆく。

「永遠に女性なるものが我らを引きゆく」

と言ったゲーテの如く、また、天からダンテをたすけたベアトリーチェの如く、また十字架を共にした藤井先生御夫妻の如く、我らは日本の興亡の戦のため、ひきはなされて詩の戦を進めよう。もう現実は無談でなくなつて来ている。順子、熱烈な愛を送っておくれ！

——第九信 1945年4月4日（水）——

今日は終日雪であつた。4月4日である。昨日は好天気。但し、春らしき風やや強し。夕になつて風はおちた。昨日、戸倉夫妻（夫は74才、妻は57才。寡夫、寡婦が再婚した夫妻です）が山本の兄の紹介でうちに同居することになりました。赤十字に勤めているおじいさん、好々爺です。水戸の在の人。妻は越後の高田のおばサン。漱石坊チャンを思い出させます。



これで炊事と掃除と洗濯のわずらいからのがれ得ます。お座敷と次の間を貸します。無賃のつもり。戦争に勝てば何がどうだつていいさ。負ければもともなにも無い。僕自身も天上行きだもの。僕がひとりでいろいろ有つていたのでむしろ両人はびっくりしている。食うより食われる方が多い。やむを得ぬさ。米もみそも醤油も、その他のすべて薪炭も彼らは僕のおかげで助かる。人助けだからいいでしょう。好人物なのが何より。しかし、両者ともなかなかシツカリものです。

Oノ字はいよいよおばあサンと奥サンと三人で疎開と定まる。防空の責任は重大さを加える。昨夜の時限爆弾はなかなかものすごい地響きをさせた。昨夜も2時間位しか眠らない。今日は昼寝をした。省線が所々で不通となる。そのうちに鉄道の不通も充分考えられる。はやく、もう一度順子とみんなに会いたい。それがおしまいだろう！ いよいよ信仰一切で生きねばならなくなつた。思えば我れも亦うかつなりし乎。ともあれ、信仰は一切に勝つ！ 日蓮の如く、烈々たる信仰に生きる。神我を聖く護り給わん！

一度、戸倉サン夫妻にあてて、僕が御厄介になるわけだから、アイサツをしておいておくれ。春さめはうらさびしい。

昨日は昼食をムラチャンのところで御馳走になる。雅子サンにも一度お礼しておいてもらおうか。おいしいゴハンとオシルコ。サケのクンセイとシチュー。それから、夕食は兄さんのところで御馳走になる。テンプラ、相変わらず油は豊富らしい。皇太后陛下から賜わつた、ネリキリ、ヨーカン常磐へ送る由。一ノ関へ送るものなし。しかしこんどゆくときは何かもつてゆこう。

卵などは口に入るかい。大やみで困るでしょう。何しろ順子からちつとも手紙が来なくて様子がわからないね。あまり変わつていないのであるうとは思ふけれども。病人はないだろうね。歌子は元気で学校へおねえサンとゆくかね。信雄と照雄はなかよく遊んでいますか。信雄は幼稚園？

東京は一晚ごとに変わつてゆくと思つてさしつかえないでしょう。いつ僕からの通信が途絶えぬとも限らないから、僕は出来るだけ今のうちに書いておく。しかし心配しないでおくれ。ただ祈つておくね。そして神様に強く信頼してね。順子の祈りと信頼と愛とが僕を支える唯一のものだから。多くの人々が血を流し、涙を流している。僕たちも早晚、そんなことにならないとはいえない。それだけこの痛ましき現実には打ちかたねばならない。それにはどうしても信仰だ。神による勝利だ。何がどうなつても断じて屈しない魂だ。信仰の力だ。神の力だ。讚美せよ、神を！ 順子のハートから讚美歌がうたわれなければ僕はさびしい。順子よ！ 神と共に生きよ。そこに我らの愛の住家あり。

自炊をしているときはひとりで讚美歌がうたえた。他人が入つて来て、それが自由に出来ないのは却つてつらい。ひとりで口ずさんでいる。或いは道を自転車で行くとき、ひとりであう。野べの鳥と共に！ 戦の現実から却つて最も超現実の国へ僕の心は飛ぶ。



順子と子供たちを毎日忘れぬ！ お前たちを僕はしっかり導いているよ。僕の力を神に於て実感せよ！ 僕が地上にあつても天上に往くとも。

世界はどうしたのか。信仰を失った人類よ、汝らの往くところは何処だ。神への信仰！ 帰れ！ 人の世よ神へ。預言者たちの叫びが今こそ切実にわかる。聖書をよめ。爆弾の愚劣さよ。聖書の力を何が破ることが出来るか。我に一巻の聖書あり。一切に勝つ！ 順子、我と共に勝て。愛する順子！ 勝利と共に！ 4月4日、辰雄。

——第十信 1945年4月7日（土）——

順子へ、辰雄より。4月4日付速達便（たよりは必ず速達で交わすことにしよう）。有難う。7日の夕方落手しました。照雄のはしがが治つてよかった。一度はする病気だから已むを得ない。卵でもあれば回復が早いのだろうから可哀そうだ。こんど訪ねるときは卵を出来るだけもつてゆこう。何しろもつて行くべきものが多いのに荷物が大きさがやかましくて困る。リックサックと両手に、計3つを携えて行きたいと思う。ヘットと豆（大豆）はもつてゆくつもりです。その外出来るだけ。お米も3升位もつてゆく。お申込の物件、承知しました。通帳有難う。町会の貯金帳はきいてみます（こんど杉沼サンが組長）。念のため、この次の持参物を列举しよう。不足のものあらば至急言つて下さい。

〈食物類〉ヘット（ラードや羊脂などの動物性油脂の一種）、大豆、卵、米（3升、これはもともと順子たちのものだもの）、海苔若干、ソバ粉、スープの素、パン、蜂蜜、バタ、……。

〈調度品〉清子の赤い下駄（サガシテミル）、エモン竹（洋服カケ）でもいいでしょう、帽子カケ、ゴトク（これはこの間の荷物に入れました）、ゼリー型、御飯型（これは自炊のときいつも水ひしゃくとして用いた）、その他、順子が欲しそうなものを出来るだけもつてゆく。

4月の旅行が最後らしい。5月はおそらく鉄道不通となろう。郵便も不通となろう。再会の日の待たるる哉、また悲壮なる哉。

*

手紙をみたら、第何信までみたといつておくれ。日付ではこちにはわからないから。もし、番号がとんだりしたらそのことも言ってもらいたい。ページ数をあわせて、全部一まとめにとじて置いてもらいたい。勿論、誰にも見せてはいけけない。愛のたよりだからね。露骨に僕の情愛があらわれているから。

僕が天国へ行ったら、手紙をくりかえしてよんでおくれ、昔のものも。そして聖書をよんでおくれ。聖書の中で順子を感じる聖句があつたら、それは天国から僕も相和して感じているのだと思つておくれ。そのときはじめて聖書が順子のものとなり、聖書を通して最も親しき会話が出来るだろう。



聖書はそれだけ深刻な書なのだ。聖書は涙と血を通さねばわからぬ書だ。それ故に聖書は万人の書なのである。最も貴き書だ。唯一つの！そして天国と来世と終末の国を語っている。キリストの山上の垂訓の意味は年と共に深まって来た！どうか子供たちに真剣に、時が来たら聖書の真理を、はなしや読書を導いて教えてやってくれ。そのことに成功すれば外のことはどうでもいい。順子の役目は果たされたのだ。僕の祈りはきかれたのだ。日曜学校へ行かせてもいい。また、順子が出来ればひらくといい。

*

そつちの生活にもいろいろ不如意のところがあるだろうが、我慢してもらおう。おばあちゃんとは別れた由。お互いによいかも知れぬ。山の向こうとやらの家はなかなかよきそうだね。一人で六畳三間はゼイタクだなあ！しかし子供がいやだというのは面白くない。凡そ子供をきらう人は幸だとは思われぬ。その点、おばあちゃんもどうかと思うね。エス様の心になればそんなことはないはずだ。

*

東京の空襲はやや本格的となって来た。これで4月に入って3回目。第1回は夜の照明弾をいくつも降下させて昼間のようにになったあのおそろしい晩、僕が外套をあの水にひたして盾の如くもってみがまえた様子を想像せよ。もうそうなるものを出すことなど眼中になくなる。第2回は、時限爆弾のものすごかつた日。第3回は今日（4月7日）の午前10時頃から1時間、B29の大編隊、120機が三鷹、吉祥寺、西荻窪の上空を南から北へとぬけて行つた。（この頃はやや向きが変わって西南から入ってくる）。高度4000米、従来の二分の一に降つて来た。随分大きく見える。夜間は3000～2000米でやってくる。だんだんこちらをナメテかかっている。壕の中からみていたが（首を一寸だして）、ものすごかつたよ。何しろ、10～20機の小編隊が群をなして、次から次へとやってくるからね。大体、壕から書斎の屋根の方角にみえたが、終りの編隊は殆ど真上を通つて行つた。これは気持ちがわるかつたね。1機が火ダルマになって落ちてゆくのが見えた。高射砲にやられたのだ。1機は操縦士がやられたとみえて、煙もはかず火もふかずして落ちてゆく。銀色のデッカイズータイがグラググラッとひるがえりつつ落ちてくる。まるで我々の方へでも来るかの如く。あの水道道路の南方、立教の東北5、6町のところへおちた。林と家が2、3軒もえた。火事場まで自転車で行つた。爆弾が爆発するのであぶなくて近寄れなかつた。ものすごい煙だ。ガソリンのもえるため。ところで驚いたことには、予科士校が爆撃を喰い、5発、10名余の死者を出した。負傷者10数名、どうも僕たちの教官室も無事ではないらしい。今日は外国語の連中は授業がないので校外勤務でみんな休んだわけ。あぶないところさ！もし昨日だったら僕たちは授業中だったよ。人の運命などわからぬものだ。だから、僕が順子にいつも、おわかれのつもりで手紙をかくのもわかるだろう。こんど一ノ関へ幸にして行けたら、順子と二人きりの時間をもちたい。そして夜は勿論〇〇で夜を明かさね

ばならない。一夜をして千夜の実力あらしめねばならない。千一夜物語というのが、その一夜を千夜たらしめようね!! 三夜をおくれば三千夜に!!!

士校の疎開もグズグズしているから、こんなことになるとも言える。これで疎開問題が早められれば上々だが。とにかく、関東地方を外に出ぬだろう。辞職は今となつては、語学科が解消せぬ限りだめだ。解消すれば辞職する。そして、昭和と赤十字だけにする。その赤十字もはや疎開すればいいのにそれもグズだ。

うちにいる赤十字の戸倉さんは総務部の人だから、僕たちの（外事部は3階）の下（2階）に居るわけ。いいジーサンだ。おばサンもいい人だ。三弦シャミセンのお師匠サンなのには一驚だね。小さいときから大すきで学校がきらいだった由。でも、うちで三弦は弾かないから御安心!? もうたのまれても弾かぬ由。奥サンのお写真をみせてくれというので、いろいろのをみせてやった。ほめていたよ。子供たちも可愛いと。さぞ奥様がお待ちでしょうなどといったている。御不自由していらつしやるでしょうとも言ってくれた。真実味のある人のようだ。二人とも不正なことやインチキはしない。それだけ気が楽でいい。でも何といつても僕がいろいろのものをもっているから、人助けをしていることは事実だが、それはソロバンには入れぬつもり。そちらでFノ字がどれだけ親切味をあらわして下さるか知らぬが、損をするつもりでやってよろしい。間ダイもセイキュウされる二倍もあげた方が勿論よい。

「二里もと要むるものには二里を共に行け」

である。こちらがキマエよくすれば、Fの方でもそうするようになる。何でもいいことは先手を打つ方が勝ちだ。

*

熊本サンが昨夜（6日）まで一晩だべって行つた。10個の荷物はやつと明日（8日）に出る。それほど状況が変わってしまった。東京の強制疎開のためだ。その次はいつ出せるやら。兄サンと樋口さんの荷物は明日、梱包、二、三日後運搬のだんどり。これも僕のおかげ、熊本サンのおかげ。そのくせ、我々の荷物に対してはとうとう一度もベングをはかつて下さらなかったね。一寸Eggoだと思ふね。まあゆるすとしよう。熊本サンはうどんとねぎをもつて来てくれた。すっかり仲よしになつてしまった。熊本サンに順子から感謝のよろしくを言つて来たと言えたら、よろこんでいた。このKサンの奥サンはLだそうだ。そのうちに疎開させると言っていた。順子もそのうちにLになるかね。それだけはごめんかね!! 戦争だからね。

丸一と仲よくなつていた方がいいね。いろいろ便宜をはかつてくれよう。ケシヨー品などやったらいいだろう。あのおかみサンは一寸おしゃれの様だから。こんど行ったら一晩位とまりに行つてもわるくない。多分18日の夜行で出かけて23日の朝帰ろうかと思つている。しかし、日時をあてにしないでおくれ。かかる状況だからどう変更するかわからぬし、変更する可能性が多いから。それでないと心配するから。



*

今日は一日空襲されてから、壕（古い方）の整備。もとのエンガイ〔円蓋〕をとりはずして、もとのユカになるところをやねにした。両側の土手を半分位くずして土もりした。そして、中を少し浅くして、本を台の上につみかさねた。よくなった。それから新壕の中の本のむし干し、相当、青カビがついているにはガツカリ。よく晴れていたのでよく乾かせた。最重要なものをのみ入れた。あとはベランダに本たてを出して置いた。已むを得ぬ。今思えばもつと売っておくことだった。また、もつと疎開させておくべきだった。しかし、なお百方手を尽くす。何より生命あつてのものだね。馬鹿な死に方はしたくない。祈っておくれよ。兄の家への疎開をたのむと、二階に置く由。親切味がない。自分たちは少し不自由しても、人のために気持のよい様という気持がないのは残念なことだ。あんなに立派なひろい壕の片すみにも入れてくれない（こちらのいのちの次に大切なものを）のにはアキレルね。それでも兄かと思う。大きい兄サンだったら本の価値を知って居られるから、充分僕の心を入れて下さろう。それだけ軍人は文のことはわからぬのかしら。それでは日本も……と思う。姉サンと来たら、「漱石全集」を僕のせまい壕に入れてくれと言って、こんどは、疎開させるからもつて来てくれだとき。僕みたいな男は馬鹿をいつもみるのか知ら。しかし、神様は見えて居られる！そして正直な人、真心の人を助けて下さる。神を相手に辰雄も順子も生きねばならぬ。その外のことはどうでもいい。

愛する順子よ！ 待ち望め！ 永遠の伴侶、辰雄。

*

第十信まで全部とどいているね。手紙のための切手を入れて置こう。もつとも速達にはあと30銭ずつ要る。

中井君は生命が大丈夫だから手紙を書かないのさ。東京の僕は明日を知らぬいのちだから書くの。文子サンにそういつて説明しておあげなさい。文子サンによろしく。

2、3日前、むらチャンのところで御馳走になったことは前便で書いたつけね。

本日（7日）佐沼から長文のおたより道子サンからあった。先月24日に佐沼着の由。もう順子へもおたよりがあったらう。S君の身の上を心配して居られる。兄サンに明日たのんでみる。S君の例の貯金帳と印形を佐沼へ送ってあげるなり、ついであらば届けるなりしておくれ。

——第12信 1945年5月1日夜——

第11信と第12信の間に多分2通送ったと思うが、頁数はこのままにして進める。既に2ヶ月余も前にたのんだ荷物がもうそろそろ着いてもいい頃と思う。



さて陳君のこと御心配をおかけしました。順子の速達本朝10時頃拝見しました。昨夕、陳君来訪。この前とは変わった晴れやかな顔をしていたので何かいいことがあったものと直感。同君群馬県の高崎の二つ手前の新町という所から数里山奥の無医村部落へ招かれることになった由。同村の村長さんからトラックで同君家族と荷物を近々迎えに来る由。それで万事解決。陳君万歳というところ！ 東京籠城もしなくてすむ！ 同君としても全力を無医村のため尽くすことが出来、素娥さんも大いに内部の功あるべしというわけです。

それで小生の洋服ダンスや本箱や衣類ダンス等を疎開兼同君の使用に(借用)供することとなり、近日、書斎もガラアキとなるでしょう。ついでに本も相当数、疎開させ、同君にも利用させればお互いに好都合というところ。藁蒲団もそのつもり。オルガンも出来れば。

こんど一ノ関へ行った帰路には寄つて見たいと思っています。中井君はまだ見えません。忙しいのでしょう。出来れば中井君と同道一ノ関へ行きたいもの。切符のことも同君はなかなか大変でしょう。とにかく陳さんの家族が一ノ関に御厄介になることは事実御心配の如くむずかしかつたので僕も安心した。

近頃、Oの字は妬みか何か知らぬが妙である。一家全体がOにたきつけられたためであらう。感情がしつくりしていない。こつちはもう一枚上に大きく出て、彼らの気持をなおしてやろうと思つてゐる。ものは対等では勝てないので、いつも更に偉大に、そして本質的には最も偉大にという心を以てのぞめば必ずすべてを処理して行くことが出来る。我々は高き義と深き愛の神、十字架を負うキリストを我々のすべてとしてのいのちとして生きている人間、何ぞ、この世の小人ばらに負けてなるものか。大きく深く高く生きて行こう！

順子もいろいろ面白くないことをそちらで経験することがあろうが、いつも僕と同じ心で乗り越えて進んで下さい。お互いに深く祈り、高く讃美しつつ！

ヨーロッパの戦局もいよいよ大詰めに来たらしい。ヒットラーはどうなったか。ムッソリーニはどうなるか。独乙は、イタリーは。立派なこの二人の英雄の鴻図空しくなるうとは。悲劇！ 日本はいよいよ全世界を敵とするか。真理のためならば、正義のためならば全世界を敵とすべし。真理も正義も不死のものなれば、これに与するものは必ず勝つべし。いよいよ我々は信仰を把持して神の勝利を信じて生くること最も肝腎。一日一日を神と共に生きん！ そこに平安と勝利とあり。その外になし。

5月20日頃、浅間山北山麓地帯の新鹿沢という温泉地へ長期演習に出かける。7月下旬までであろう。その先はどうなるかわからない。うちの戸倉さん御夫妻にほめかしたら大いに僕の不在を心配していたので気の毒に思う。しかし、家そのものはどうなつてもいいから、自由に行動してもらうつもり。沖縄の戦鬭に勝利あれかし。

古い写真3枚同封。AUF WIEDER SEHEN〔おようなら〕ドイツ語の勉強でもしないか。こんど本を持って行こう。

順子！ 1945年5月1日 辰雄。

